



年 組 名前

# 道新でワークシート

## 小樽・手宮中央小保存会 ルーツの「布袋様」再現へ

【小樽】第70回さっぽろ雪まつりに、小樽の手宮中央小雪まつり保存会が初めて雪像を作る。保存会は、雪まつりのルーツの一つとされる雪像展を1935年（昭和10年）に始めた旧小樽市立北手宮小のOBらで構成。伝統の継承に取り組む会員は「先人の思いを伝えるために製作したい」と意気込む。

旧北手宮小雪まつりは35年以降、校庭を会場に実施。積雪環境を教育に生かすことが狙いで、児童や教職員らが雪像を作った。同小は2016年3月に閉校し、手宮中央小に統合。OBらが現行の保存会を結成した。

50年開始のさっぽろ雪まつりは①旧北手宮小雪まつり②旧札幌第一中（札幌南高）の雪戦会③札幌の中島公園で行われていた氷上カーニバルの三つが誕生のヒントとされる。札幌と小樽の西観光協会などが17年に、雪まつりや「小樽雪あかりの路」のPRに関する連携協定を締結したことを契機に、両協会側が保存会に協力を呼び掛けた。

保存会は、さっぽろ雪まつりの大通会場（西12丁目）に、「第1回北手宮小学校雪まつり」で作った七福神の布袋様を製作する。会員ら10人が2月2日から、市民雪像より一回り大きい幅4尺、高さ2尺、奥行き2尺の特別雪像を作る。旧北手宮小の雪まつりを紹介するパネルの展示も検討する。

昨年12月27日には、保存会の会員が集まり、製作工程などを話し合った。保存会の田宮昌明会長（61）は「当時の写真を参考に作る。旧北手宮小の伝統を来場者に知ってほしい」と話す。（前野貴大）

2019年1月7日夕刊社会面（記事は再編集しています）

①1950年開始のさっぽろ雪まつりは、何をヒントにして誕生しましたか。3つ書きましょう。

1.

2.

3.

②雪まつりの大通会場に布袋様の雪像を作る手宮中央小保存会の会員は、どのような気持ちですか。